

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈10月末現在〉

農業▷8人 教育魅力化▷2人 観光▷1人
起業型▷9人 協働型▷4人 スポーツ▷1人

教育魅力化支援員

やまなか けいと
山中 恵杜さん

着任：令和7年4月（1年目）
出身：帯広市



—これまでの経歴について教えてください。

高校まで帯広市で過ごし、弘前大学教育学部に進学しました。子どもの頃から「人に関わる仕事がしたい」と思い、中学時代には漠然と「先生になりたい」と考えていました。思いは冷めず、大学では教育に関する幅広いテーマに関心を持ち、特に「部活動の地域移行」や「公営塾」に興味を持ちました。卒業後は放課後児童支援員や家庭教師として3年間、現場で子どもの学びを支援してきました。

—厚真町に来たきっかけは？

大学時代の担当教授が、公営塾を運営している会社を紹介してくれたのがきっかけです。教育の場を学校の外にも広げる公営塾の取り組みに興味を持ちました。公営塾を運営している厚真町に直接連絡したところ、芽室町で開催された講演会に誘われて参加しました。子どもたちの学びや成長を支える環境づくりへの関心が高まり、町ぐるみで教育に取り組む場所で挑戦したいと厚真町を選びました。

—どのような活動をしていますか？

町内の公営塾で高校生の学習支援はもちろん、放課後の過ごし方や地域とのつながりを大切にしながら活動しています。生徒一人ひとりが「何をやりたいのか」「どのような将来を描きたいのか」を考えるきっかけづくりを心掛けています。地域の大人や高校生同士の交流の場を増やしています。私自身もかつて、そのような場で自衛隊員であるクラスメイトの父親や近所のラーメン店の店主など“地域の中の大人”と出会い、支えてもらいながら「生き方」を学ぶことができました。今度は、自分がその役割を担うつもりです。

—3年後の目標を教えてください。

学校の先生でも地域のボランティアでもない“第三の立場”として、子どもたちの放課後を支える仕組みを厚真で実現したいと思っています。教育やスポーツ、地域がつながることで、子どもたちが「大人になってもこの町で挑戦したい」と思えるような環境をつくるのが目標です。部活動の地域移行や学びの場づくりなど、校外でも持続的に子どもを支える環境づくりに関わっていきたいです。

厚真町とみなさんの関係をつなぐウェブサイト「あつまのおと」では、地域おこし協力隊の情報をはじめ、町の「ヒト・コト・モノ」、「挑戦と出会い」の情報を発信しています。



発表します！
将来の夢

厚真中央小学校6年

医者

はるさん

イラストレーター

はるさん

サッカー選手

いっぺいさん

税関職員

しゅうとさん

サッカー選手

れんさん